

# Library News

Nov. 1978.

滋賀医科大学附属図書館報

目	次
「図書館報」の発刊にあたって……………	1
滋賀医科大学図書館の基本構想……………	2
日本医学図書館協会への加盟……………	4
オンライン文献検索サービスの実施……………	4
文献複写業務の開始……………	6
医学史資料の寄贈について……………	6
図書館のあゆみ(49・2～53・3)……………	7
図書館の活動(53・4～10)……………	8

## 「図書館報」の発刊にあたって

学長 脇坂行一

滋賀医科大学の附属図書館は、昭和49年10月大学の開学と同時に守山の仮校舎内に設置されました。昭和51年8月現在の本校舎に移転後も、図書館が未着工のため、基礎研究棟、臨床研究棟、共同研究棟の一部を暫定的に使用し、仮住いの不便を忍んでまいりましたが、本年7月に附属図書館の建築が始まり、明年2月末に竣工予定の運びとなりましたことは、私達にとって大きな喜びであります。この間、図書の充実については、文部省をはじめ学内外の御援助を得て、野崎図書館長および図書課職員を中心に鋭意努力を重ねてまいりましたが、これまでに貴重な図書、資料を多数御寄贈下さいました滋賀医科大学設置協力会、大学、研究所、ほか関係各位に厚くお礼を申し上げます。

本学附属図書館は医学の教育、研究、診療および基礎学課程(進学課程)における教育、研究を進める上で中枢的な機能を果すものであり、その整備、充実の重要なことは申すまでもありません。近年医学の進歩とともに、医学およびこれに関連する分野の情報量も飛躍的に増加し、かつその内容も益々複雑多岐になってまいりました。医学関係の雑誌数をみても、日本の医学中央雑誌の収載誌数は昭和51年9月現在で和文誌1399、欧文誌140、合計1539、また米国のCumulated Index Medicusに収載されている世界各国の代表的な医学関係の学術誌は1975年現在で2518におよんでおります。世はまさに文献情報の洪水時代とも云えますが、これらの情報の中から必要なものを有効適切に収集、整理し迅速に利用者に提供できるようにすることは医学図書館に課せられた大きな任務であります。また教育面において、教育用図書、教養図書、視聴覚教育用機器並びに教材、医学資料などを整備し、学生の自習内容の向上をはかることも重要であります。さらに他大学の医学図書館との相互協力、地域の医療機関および医療関係者に対する医学情報のセンターとしての役割も果たさなければなりません。

幸に本学では、限られた予算と定員の中ではありますが、創意工夫をめぐらし新しい時代の医学図書館の建設を目指して、JOIS(JICST On - line Information System)の採用をはじめ、展示コーナー、視聴覚教育設備など着々と準備が進められております。しかしながら、図書の整備そのほか完成までにはなお多くの努力が必要とされます。今後本学の附属図書館が名実ともに充実して、その本来の使命を達成することができますよう、関係各位の一層の暖かい御理解と御支援、御協力をお願い申し上げます。

昭和53年10月

## 滋賀医科大学図書館の基本構想

附属図書館長 野崎光洋

琵琶湖を見おろす湖南の高台に滋賀県下の唯一の医科大学として本学が設立されてから丁度4年が経過しました。その間、学内はもとより学外関係者の多大の御努力、御協力により、本年10月には附属病院の診療業務も開始し、また図書館建築も7月下旬に着工、来年2月には竣工の見通しとなり、名実共に医科大学として歩み出しましたことは御同慶の至りです。

云うまでもなく医科大学の使命は医学生の教育、医学研究、ならびに診療であり、そのために必要な情報の収集、組織化、伝達を荷っているのが大学図書館の使命であります。本学図書館としまして、その使命を果すべく鋭意努力を重ね、図書館資料も徐々にではありますが整備充実して参り、此度、館報を発行し、利用者により強い絆を結ぶとともにサービス機関として一層利用者の便をはかるまでに成長してきましたことは偏えに関係者各位の御協力の賜であり、喜びにたえません。

最近、社会の変化、発展にともなう爆発的な情報量の増加、情報機構の変化により、図書館の機能ならびに機構も大きく変化してきました。過去、図書館は「本の倉庫」司書は「本の番人」とみられてきた時代がありましたが、今や、図書館は国際的な情報ネットワークの一つのステーションであり、司書はその情報伝達のヘルパーとしての役割を荷っています。また、資料の形態も単に印刷物のみならず、フィルム、スライド、ビデオ、磁気テープ等と多様化し、それにともない、情報検索方法もマイクロリーダー、テレビ、コンピューター等と多岐にわたってきました。このような情報機構の変化にともない図書館職員も単に本の番人ではなく情報検索のヘルパーとして新しい情報伝達機構の知識と技術を身につけた専門職員が要求されるようになってきました。

このような新しい情報化時代に新しく設立する本学図書館としまして、当然のことながら、古い図書館の殻から脱皮し、新しい情報機構を備えた新しい図書館にしたいと関係者一同念願しております。しかし情報機構が変わったとしても図書館の基本的使命は研究、教育、診療を支え、必要な情報を提供することには変わりありません。本学図書館としても教官、大学院学生等を対象とした研究図書館ならびに学部学生、医療技術者、その他の職員等を対象とした学習図書館を図書館機能の2本の柱と考えております。また、利用者の対象も単に学内のみに限らず医学情報センターとして地域社会へも開けた図書館にしたいと考えております。

幸い、本学の図書館は地理的にも大学の中央に位置し、西は本学のシンボルトリー(楠)を中央に

配した中庭に面し、南側には琵琶湖を形どった池井の造成が予定されています。このような恵まれた環境に建てられた図書館が教育、研究、診療の交流の場としても親しまれ、多岐にわたる大学機能を有機的につなぐ上で、少しでもお役に立てば幸いです。

図書館の運営、資料の収集ならびに利用、図書館建築の案内等については今後図書館報を通じて詳しくお知らせしますので、ここでは基本の方針のみについて簡単にふれたいと思います。

#### 図書館運営

図書館は大学の教育、研究、診療業務に必要な情報を提供するサービス機関であり、その運営はあくまで利用者中心でなければなりません。本学図書館の運営は図書館委員会の議を経て行っており、委員会を通じて利用者の声を反映させ、利用者の便を第一に考えて運営することに努めています。利用者からの希望の多い夜間開館も新図書館開館時より開始する予定です。

#### 図書館資料

新しい情報化時代に側した図書館にするために次のような基本方針で資料の収集を計画しております。

- ① 全国的情報ネットワークを利用して出来るだけ早く必要情報を入手できるようなシステムを導入する。その一環としてJOIS（日本科学技術情報センターオンラインインフォメーションシステム）ならびにテレックスを導入すると同時に二次資料の充実を努める。
- ② 医学図書館として機能を発揮するために必要最小限の専門雑誌を購入し、それらについて過去10年間のバックナンバーを揃える。
- ③ 本学は医科単科大学であるので、専門書、学生用図書の外に基礎学課程の図書の充実をはかるとともに研究者、学生のみならず医療従事者の絶えざる知識、技術の向上のための資料も充実する。
- ④ 教育効果を上げるための視聴覚資料ならびにその設備の充実をはかる。

#### 図書館建築

図書館建築については出来るだけ快適な読書ならびに勉学の間となるとともに、図書館業務が機能的かつ効率的に行なわれるよう考慮して建築設計をしました。具体的には次の様な点が本学図書館の特徴です。

- ① 図書館を明るくかつ機能的にするために間仕切りをできるだけ少くし、書架は集密書架を除いてはすべて開架式とした。開架書架は中央に置き、南側および西側に閲覧コーナーをもうけた。
- ② 学生、医療技術者等の学習のための視聴覚室をつくり、そこに資料室、個席室、小グループ討論室をもうけた。
- ③ 小人数で維持、管理できるよう、事務室は1ヶ所（一階）にまとめた。
- ④ 入口ホールにブラウジングコーナーならびに展示コーナーをもうけ、医学史資料等の供覧の場とした。
- ⑤ 学生自習室をもうけ学生が時間外にも利用できるよう考慮した。
- ⑥ 身体障害者の利用を考慮した。

本学図書館の現状ならびに将来構想について述べてきましたが、まだまだ資料も充分でなく御迷惑

をおかけすることも多いと思います。しかし、図書館職員一同、図書館はサービス機関であることを自覚し、新しい情報化時代の専門職員として少しでも利用者の役に立てるよう研修を重ねております。今後とも、本学図書館に対し御支援御鞭達を賜りますようお願いしまして、御挨拶かたがた御報告といたします。

## 日本医学図書館協会への加盟

本学図書館は去る10月13日に行なわれた日本医学図書館協会の総会で準会員として加盟が承認されました。

同協会は、昭和2（1927）年、前身である「官立医科大学附属図書館協議会」として発足し、昨年50周年を迎えました。創立以来国公立の医大、医学部のみならず歯科大学、薬科大学、医学研究機関にまで情報網を拡大し図書館間の相互利用、図書館サービスの向上、館員養成等々が国の図書館活動において先駆的な役割を果たしてきました。

本学図書館も協会加盟を機に全国的、国際的ネットワークの一環としてより積極的な活動のできることを念願しております。

## オンライン文献検索サービスの実施

10月より、MEDLARS医学文献ファイル、CAC化学文献ファイルを中心とするオンライン文献検索サービスを実施しています。

日本科学技術情報センター（JICST）が開発しましたコンピュータによるオンライン文献検索システム（JOIS：JICST Online Information System）を公衆回線を使って当館設置の端末機から求める文献のレファレンスを検索することができます。このシステムの最大の特徴は会話型の検索システムであることです。ある調査主題についてのキーワードや分類などの検索タグを検索結果をみながら自由に差し換えたりこれらの組合せにより質問式を自由に変更することができ、納得のいくまでコンピュータと会話（質問）をくり返すことによって必要な文献情報を即時入手することができますし、同内容の文献を収録するIndex Medicus、Chemical Abstractsよりも早く利用することができます。

MEDLARS 医学文献ファイルを中心としたJOIS オンライン文献検索サービスは実施以来1ヶ月を過ぎましたが、利用者の評判もよく順調な出足をみせており、このサービスに対する関心の強さがうかがえます。

このシステム（JOIS-I）はJICSTが科学技術情報の全国的なオンライン情報サービスの実施をめざして、その第一段階に開発したシステムでさらにレベルアップしたシステムへの移行も予定されています。

本システムを利用しての文献検索サービスを下記の要領で実施しておりますので、この機会に一度ご利用下さい。

記

1. サービス対象 学内利用者に限る

## 2. 検索対象ファイル

ファイル名	蓄積期間	情報量	分野	情報源
JICST理工学 文献ファイル	1975年4月 ～ 現在	約35万件/年	理 学 全 般	JICST 発行の「科学技術文献速報」 に対応。
CAC化学 文献ファイル	1974年1月 ～ 現在	約36万件/年	化 学 化学工業	米国ケミカル・アブストラクツ・サービ ス発行「Chem. Abst.」に対応。
MEDLARS 医学文献ファイル	1974年1月 ～ 現在	約23万件/年	医 学 薬 学	米国国立医学図書館発行の「Index Medicus」に対応。
クリアリング ファイル	1976年度 ～ 現在	約2万件/年	科学技術 全 般	国内の公共試験研究機関約600機関 で行っている研究テーマを対象。

## 3. 検索受付時間

	月	火	水	木	金
9:45~17:00	J I C S T M E D . C L E A R	J I C S T C A C C L E A R	C A C M E D . —	J I C S T M E D . C L E A R	J I C S T C A C C L E A R

(注) JICSTは、JICST理工学文献ファイル

CACは、CAC化学文献ファイル

MEDは、MEDLARS医学文献

CLEARは、クリアリングファイルを示します。

## 4. 端末使用料

JICST・MEDLARS・クリアリングファイル 180円/分

CACファイル 205円/分

(ただし、1分未満は切上げ)

### ◎オフライン回答料

手 料 500円/回

回答書料 JICST・MEDLARS・クリアリングファイル 15円/件

CACファイル 23円/件

その他 通話料(大津一大阪) 30円/分

オンライン検索を行う場合、端末機の操作は比較的簡単ですが、検索対象となりますMEDLARS  
ファイルの内容(収録範囲、索引語や検索語として使用されるMeSH件名など)について予め知って  
いただくことが、必要とする文献を適正に、またもれなく検出できることとなりますので、次号に解  
説を加えて行きたいと思えます。

## 文献複写業務の開始

今まで学内校費（講座等経費移算分）のみに限ってございました電子複写方式による文献複写は、10月から私費及び学外からの申込みも下記の要領で受付けております。

記

受付場所   カウンター

受付時間   9：00～16：30

                  土曜日は9：00～11：30

料    金    学内 40円      学外 45円

※複写資料は図書館所蔵の資料に限ります。

## 医学史資料の寄贈について

旧彦根藩々医河村純碩の末裔である河村純一氏（開業中）より江戸時代における多数の貴重資料を戴きました。

- (イ) 和漢書   1,500点
- (ロ) 医療器具   100余点
- (ハ) 医薬品数十点
- (ニ) 古文書数十点

本学図書館では教官と図書館職員でワーキンググループを結成し、明年中に資料目録の完成をめざして整理を開始しました。

これらの資料は医学史研究者はもとより医学者、学生の貴重な研究材料であり、また先祖の残した文化遺産として大切に保存していくつもりです。

## 図書館のあゆみ (49・2～53・3)

- 49・2・16 京都大学に滋賀医科大学創設準備室を設置
- 10・1 滋賀医科大学開学, 附属図書館長事務取扱に脇坂学長
- 10・28 図書委員会発足
- 11・22 図書・設備合同委員会
- 50・2・21 図書委員会
- 4・1 事務局に「図書課」設置
- 5・22 図書委員会
- 6・4～6 国立大学図書館協議会総会(山口)
- 6・13 近畿地区国公立大学図書館協議会総会(京都)
- 8・21 図書委員会
- 11・19 図書委員会, 図書館委員会発足
- 51・2・9 近畿地区医学図書館協議会(和歌山)
- 3・1 初代図書館長に野崎教授発令
- 3・17 図書館委・建築委合同委員会
- 4・27 図書館施設研究集会(滋賀大)
- 5・7 近畿地区国公立大学図書館協議会総会(大阪)
- 5・19 図書館委員会
- 6・3 新設国立医科大学図書館会議(名古屋)
- 8・16 本校舎へ移転
- 9・10 近畿地区国公立大学図書館協議会館長・事務(部)長懇談会
- 9・30 近畿地区医学図書館協議会(兵庫)
- 11・16～17 視聴覚教材展示会
- 11・17 図書館委員会
- 12・4 図書館委・教育方法改善研究委合同委員会
- 12・13 図書館統計研究集会(京大)
- 52・1・25 近畿地区医学図書館協議会(阪大)
- 2・8 図書館委員会
- 3・23 近畿地区国立大図書館協議会(京都)
- 4・27 図書館施設研究集会(大阪女子大)
- 5・25 近畿地区国公立大学図書館協議会総会(姫路)
- 5・27 近畿地区医学図書館協議会(大阪)
- 6・1 国立医科大学図書館会議(東京)
- 6・2～3 国立大学図書館協議会総会(東京)
- 6・15 図書館委員会
- 9・5 近畿地区国公立大学図書館協議会, 館長・事務(部)長懇談会(大阪)
- 9・21 図書館委員会
- 9・26 近畿地区医学図書館協議会(大阪)
- 53・2・22 図書館委員会
- 2・27 近畿地区医学図書館協議会(大阪)
- 3・1 野崎図書館長再任
- 3・10 図書館委・建築委合同会議

## 図書館の活動 (53・4～10)

- 53・4・1 図書課長交替(新任者:原博・東京水産大学図書館事務長)
- 4・4 図書館施設研究集会(同志社女子大)
- 4・14 近畿地区国立大学図書館協議会(京大)
- 4・27 JOIS説明会(科学技術情報センター)
- 5・1 図書館委員会
- 5・15 図書館についての事情聴取(文部省)
- 6・2 近畿地区国公立大学図書館協議会総会(大教大)
- 6・5 病院パラメディカル・スタッフとの話し合い
- 6・7 近畿地区医学図書館協議会例会(天理)
- 6・14 国立医科大学図書館会議(筑波大)
- 6・14～16 国立大学図書館協議会総会(筑波大)
- 7・5 図書館委員会
- 7・11 近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会(阪大)
- 7・15 野崎教授(図書館長)アメリカへ出張(9月14日まで, 図書館長事務代理に佐野副学長)
- 7・23 図書館建築工事開始
- 8・7～9・2 大学図書館職員長期研修(図書館短大)
- 9・8 近畿地区国公立大学図書館協議会館長・事務(部)長会議(神大)
- 9・20 近畿地区医学図書館協議会例会(京大)
- 9・20 学術集談会(友吉教授・原課長, 河村文庫について講演)
- 9・22 日本医学図書館協会加盟申請に対する実地調査
- 9・26 大学図書館業務機械化委員会(阪大)
- 9・28 JOISテスト・ラン開始
- 10・5 滋賀県内の病院図書室職員に文献検索の講習会
- 10・6 図書館委員会
- 10・12～13 日本医学図書館協議会総会(岩手)
- 10・16 講演会「Excerpta Medicaの効果的利用について」(Barrie T. Stern)(本学)
- 10・19 河村文庫整理に関するワーキンググループ
- 10・23 大学図書館業務機械化委員会(京大)

### 編集後記

懸案になっておりました「図書館報」をここに創刊することが出来ました。今後、利用者と強い絆を結ぶため、多方面の意見・要望を汲み上げていきたいと考えます。  
当面、年4回の刊行予定です。

---

Library News No.1 (1978年11月)

発行: 滋賀医科大学附属図書館

〒520-21 大津市瀬田月輪町 電話 0775-48-2076